

令和4年度 第4四半期 (1月~3月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 0.3 ポイント改善、
令和3年度第4四半期からは 18.5 ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲12.2 (前期比+0.3、前年同期比+18.5)、来期見通し (4月~6月) については▲9.2 (当期比+3.0) となった。

製造業、建設業、卸売業で DI 値が前期比プラスとなったものの、原材料・エネルギー価格の高騰は今後も続くとみられ、先行きは依然不透明であるとの声が目立つ。また、深刻化する人手不足・採用難に加え、物価高に伴う消費者の買い控えや購買意欲の低下等、需要の停滞も懸念される。

設備投資については、「実施した」との回答が 29.8 (前期比▲5.4、前年同期比▲5.6)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 35.2 (当期比+5.4) となった。

■製造業

業況 DI 値は▲19.2 (前期比+6.4、前年同期比+3.2)、来期の見通しについては▲20.8 (当期比▲1.6) となった。

IT 業界では好調であるとの声、食品関連では受注が増加したとの声も聞かれたが、全般的に原材料・エネルギー価格の高騰による採算悪化、欧州市場の後退による影響、人材の確保難を懸念する声が目立った。自動車関連部品の需要が低下したとの意見もあった。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「需要の停滞」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は▲13.8 (前期比+8.4、前年同期比+23.7)、来期の見通しについては▲6.9 (当期比+6.9) となった。

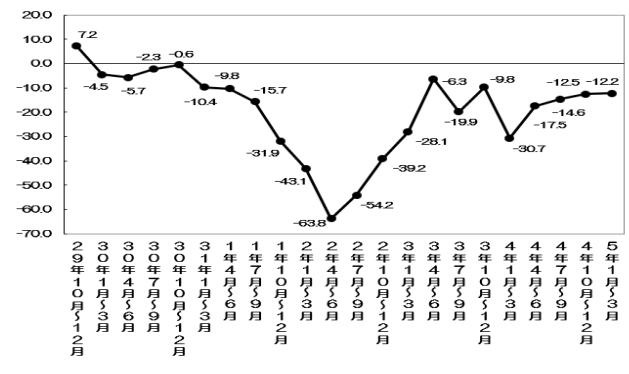
大型案件の完工が続いている、仕事量は確保できているとの声が聞かれる一方で、全般的に建築資材・燃料費高騰のため収益が上がらないという声や、求人を出しても応募が少ない、現場担当者の不足により受注・施工計画が立てづらい等、人手不足が深刻であるとの声が目立った。

経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」、「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」が主に挙げられる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)回答企業数：182 社
- 調査期間
令和5年1月~3月
- 調査方法
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 81・建設業 29・卸売業 17
小売業 24・運輸業 10・サービス業 21

全業種



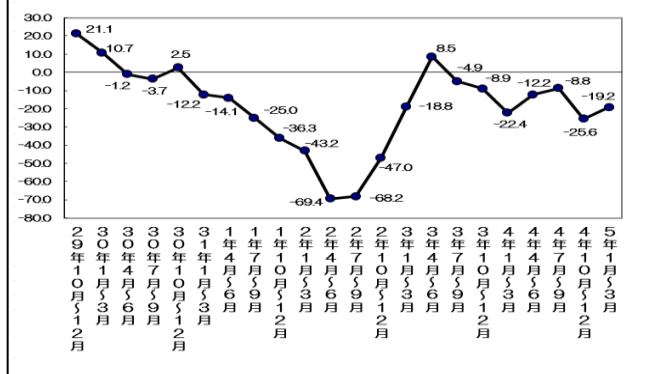
《A》前年同期 (令和4年1月~3月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	↑
22.7%	42.4%	34.9%	▲12.2%	↑

《B》来期 (令和5年4月~6月) の景況見通し

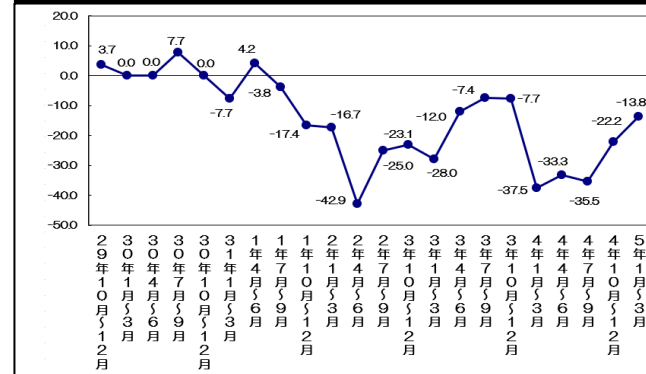
良い	同様	悪い	DI 値	↑
18.5%	53.8%	27.7%	▲9.2%	↑

製造業



【前年同期比】 令和4年1~3月	【来期見通し】 令和5年4~6月
自社の業況 ▲19.2 ↑	自社の業況 ▲20.8 ↓

建設業



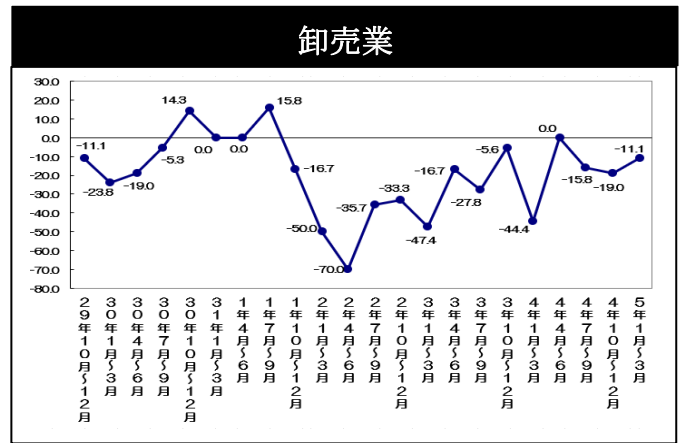
【前年同期比】 令和4年1~3月	【来期見通し】 令和5年4~6月
自社の業況 ▲13.8 ↑	自社の業況 ▲6.9 ↑

■卸売業

業況 DI 値は▲11.1（前期比+7.9、前年同期比+33.3）、来期の見通しについては±0.0（当期比+11.1）となった。

取引先（宿泊・イベント関連業）に回復の兆しがみられるとの声も聞かれる中、全体的にはやはり仕入価格や諸経費の上昇により利益が減少している、販売価格への転嫁が難しい、需要が減少している、賃上げは難しい等の声が多かった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「需要の停滞」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。



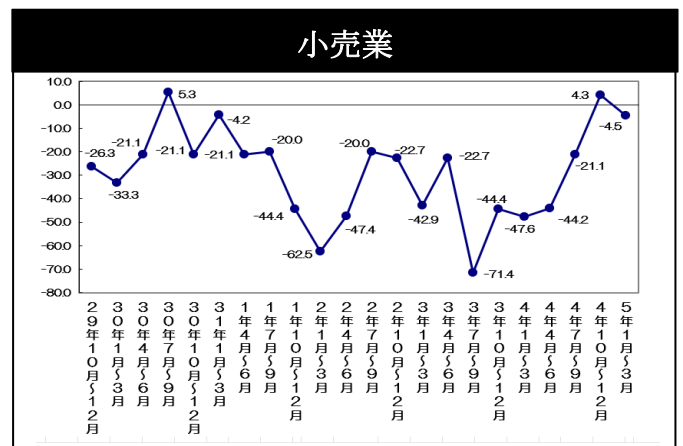
【前年同期比】	令和4年1～3月	【来期見通し】	令和5年4～6月
自社の業況	▲11.1 ↑	自社の業況	0.0 ↑

■小売業

業況 DI 値は▲4.5（前期比▲8.8、前年同期比+43.1）、来期の見通しについては±0.0（当期比+4.5）となった。

新型コロナウイルスの影響が収まりつつあり、良くなっているとの声、イオンモール豊川への出店に期待したいとの声もあったが、諸経費や仕入価格の上昇、人手不足を訴える声が多かった。また、スーパーマーケットでは客数が伸び悩んでいるとの声、価格上昇分を売価に転嫁できないとの声があった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



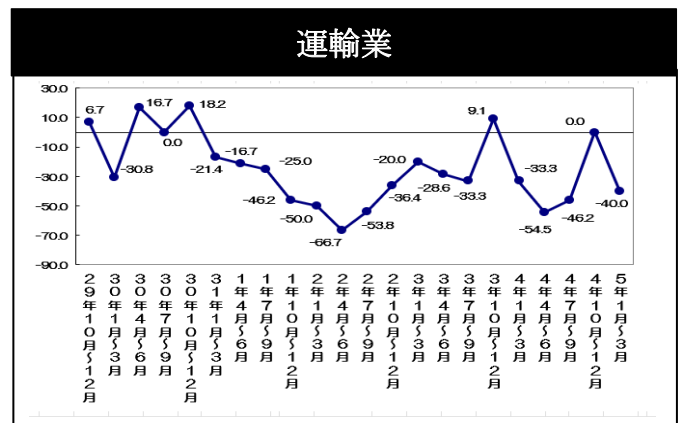
【前年同期比】	令和4年1～3月	【来期見通し】	令和5年4～6月
自社の業況	▲4.5 ↑	自社の業況	0.0 ↑

■運輸業

業況 DI 値は▲40.0（前期比▲40.0、前年同期比▲6.7）、来期の見通しについては▲40.0（当期比±0.0）となった。

運送量は若干減少、燃料費は高止まりの様相を呈し、値上げ交渉も難航しているため、従業員の賃上げが難しいとの声が挙がった。また、「2024年問題」についても、現状良い方策が出ていないとのことであった。

経営上の問題点としては「運送単価の低下・上昇難」、「人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」、が主に挙げられる。



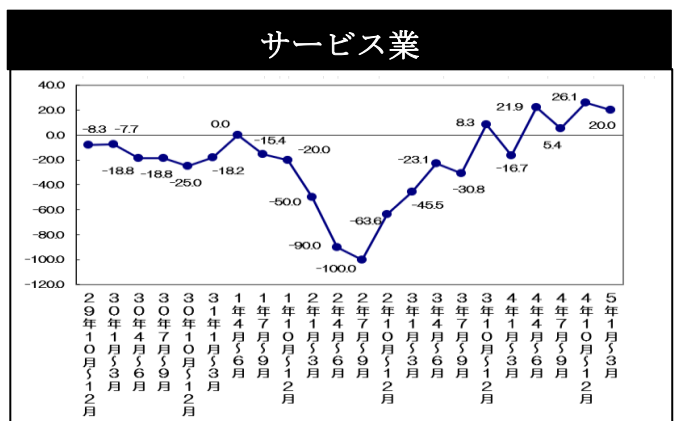
【前年同期比】	令和4年1～3月	【来期見通し】	令和5年4～6月
自社の業況	▲40.0 ↓	自社の業況	▲40.0 →

■サービス業

業況 DI 値は+20.0（前期比▲6.1、前年同期比+36.7）、来期の見通しについては+23.8（当期比+3.8）となった。

観光業では全国旅行支援の影響で需要が回復したとの声、イベント・デザイン関連でも回復しつつあるとの声が挙がった。一方で、警備関連では社員の高齢化が進み退職者が出ているとの声、観光業では需要回復に伴い人手が足りないとの意見があった。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「消費者ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



【前年同期比】	令和4年1～3月	【来期見通し】	令和5年4～6月
自社の業況	20.0 ↑	自社の業況	23.8 ↑